

**第1回
徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会
資料**

平成29年7月10日(月)

徳島市都市整備部まちづくり推進課

目 次

1 鉄道高架事業とまちづくり計画	1
(1) 鉄道高架事業の目的及び概要	
(2) 鉄道高架に関連する徳島駅周辺のまちづくり	
2 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の役割等	3
(1) 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の設置	
(2) 徳島駅周辺まちづくり計画の策定体制	
3 徳島市におけるまちづくりに関する計画及び方針	4
(1) 本市全体のまちづくりの指針	
4 上位計画(まちづくり総合ビジョン・都市計画マスタープラン等)におけるまちづくりの方向性や考え方	5
(1) まちづくり総合ビジョンにおける方向性等	
(2) 都市計画マスタープラン（H24年3月策定）における方向性等	
(3) 立地適性化計画（H30年度策定予定）における方向性等	
5 本市中心部の現状	7
(1) 現状及び課題	
6 徳島駅周辺における固有の課題	8
(1) 公共交通	
(2) 都市基盤	
(3) 都市の魅力	
(4) にぎわい	
(5) 社会的二一ズ	
7 現行の「徳島駅周辺まちづくり計画」(H22年度策定)	12
(1) 「徳島駅周辺まちづくり計画」の概要	
(2) 「徳島駅周辺まちづくり計画」の課題	
8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」	16
(1) 計画策定までのスケジュール	
(2) 計画策定区域	
(3) 計画策定の考え方	
(4) 整備方針に基づく検討事項(案)	

1 鉄道高架事業とまちづくり計画

(1) 鉄道高架事業の目的及び概要

○鉄道高架事業は、交通渋滞の緩和や踏切事故の解消など都市交通の円滑化、また、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図ることを目的としている。

○主な事業効果

- 1 都市交通の改善 ⇒ 踏切除却による踏切事故や交通渋滞の解消、街路整備による交通の円滑化
- 2 防災機能の強化 ⇒ 新たな街路や高架側道の整備による避難路、救援路、延焼遮断帯の確保
- 3 交流の促進・にぎわいの創出 ⇒ 鉄道で分断された市街地の一体化による地域住民や就業者等の交流推進
- 4 ユニバーサル機能の強化 ⇒ 駅施設等のバリアフリー化の推進や鉄道交差部での安全で円滑な横断の確保による高齢者や障害のある方にも優しいユニバーサルなまちづくり

○計画の概要

【鉄道高架】

鉄道名	JR四国 高德線 牟岐線
事業内容	高德線 出来島踏切西～徳島駅 約0.7km 牟岐線 徳島駅～園瀬川左岸 約4.0km 計 約4.7km 踏切数 13箇所
概算事業費	約500億円
交差道路	都市計画道路 11路線（うち都市計画未決定 3） 市道 19路線 計 30路線

1 鉄道高架事業とまちづくり計画

【まちづくり】

整備箇所	徳島駅周辺
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・（仮称）東西道路の新設・北口駅前広場の整備・（仮称）阿波おどりロードの整備・南口駅前広場の再整備等
概算事業費	約155億円

整備箇所	二軒屋駅付近
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・二軒屋駅新浜線の整備（※延伸して県道宮倉徳島線へ接続）・徳島駅西須賀線の整備・住吉万代園瀬橋線の整備（※県道宮倉徳島線へ接続）・駅前広場の整備等
概算事業費	約95億円

(2) 鉄道高架に関連する徳島駅周辺のまちづくり

○現行の徳島駅周辺まちづくり計画(H22年度策定)における整備内容(※詳細は、7において記載)

- ⇒ 〔 車両基地移転後の跡地における駅前北口広場や高速バス・タクシーの乗降場、多目的広場の整備、駅前南口広場の再整備、道路の新設等
- ⇒ 徳島駅周辺の活性化には、十分な効果が得られない
- ⇒ 徳島駅周辺のまちづくりが徳島駅部の課題とされている
- ⇒ より一層のにぎわいの創出等を可能とするまちづくり計画の策定が急務

そのために、
○にぎわいの創出
○都市の魅力づくり
○公共交通機関利用促進
これらの観点から、専門的に検討し、市民等の意見を反映する必要がある

2 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の役割等

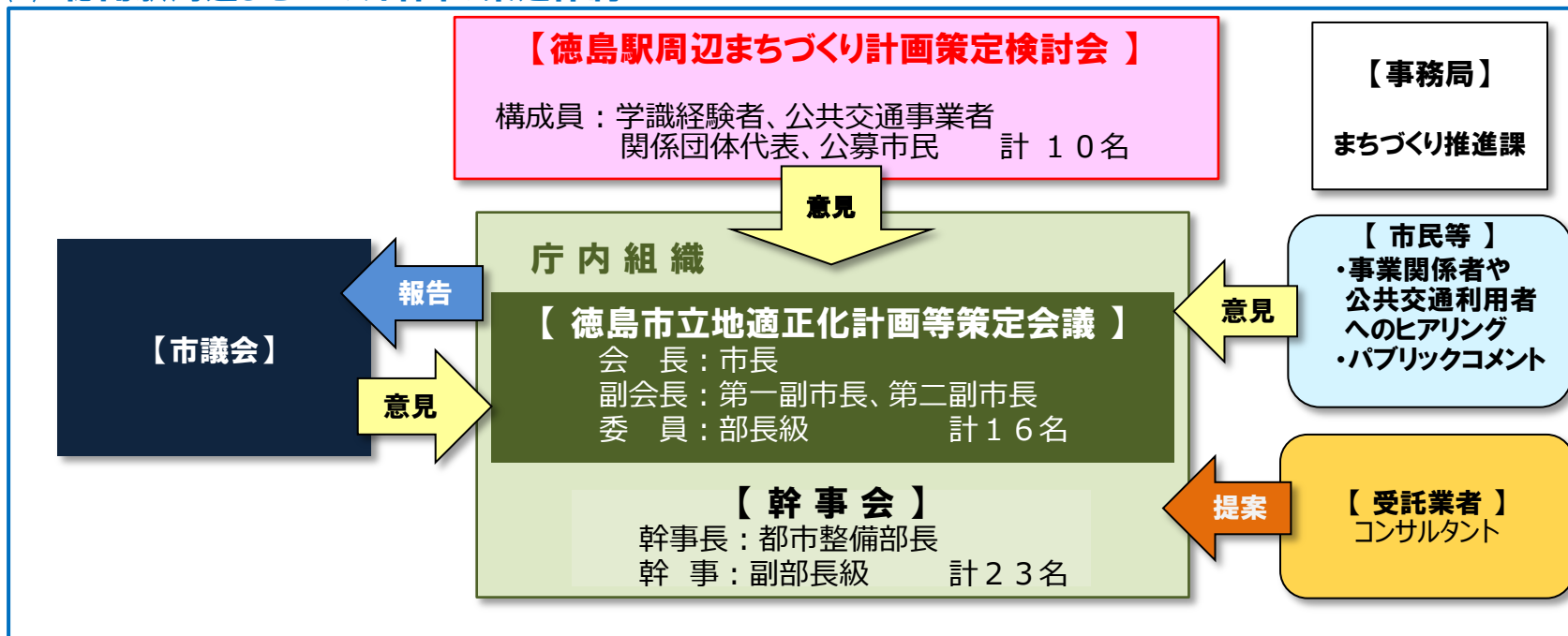
(1) 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の設置

○現行の徳島駅周辺まちづくり計画を見直し、新たなまちづくり計画を策定する過程で、専門的に検討を行い、また幅広く市民等の意見を反映する必要があることから、学識経験者や関係団体の代表者、公募市民等を委員として構成する検討会を設置する

○検討会での協議内容や委員からの意見を反映しながら、本市は、新たな徳島駅周辺まちづくり計画の策定に取り組む

⇒ 20年、30年後の鉄道高架後の徳島駅周辺の状況や少子高齢化・人口減少の進行等の社会情勢の変化を見据えて、駅周辺に集約すべき都市機能などを検討し、徳島駅周辺のまちの将来像を描き出す

(2) 徳島駅周辺まちづくり計画の策定体制

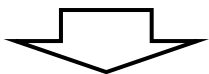


3 徳島市におけるまちづくりに関する計画及び方針

(1) 本市全体のまちづくりの指針

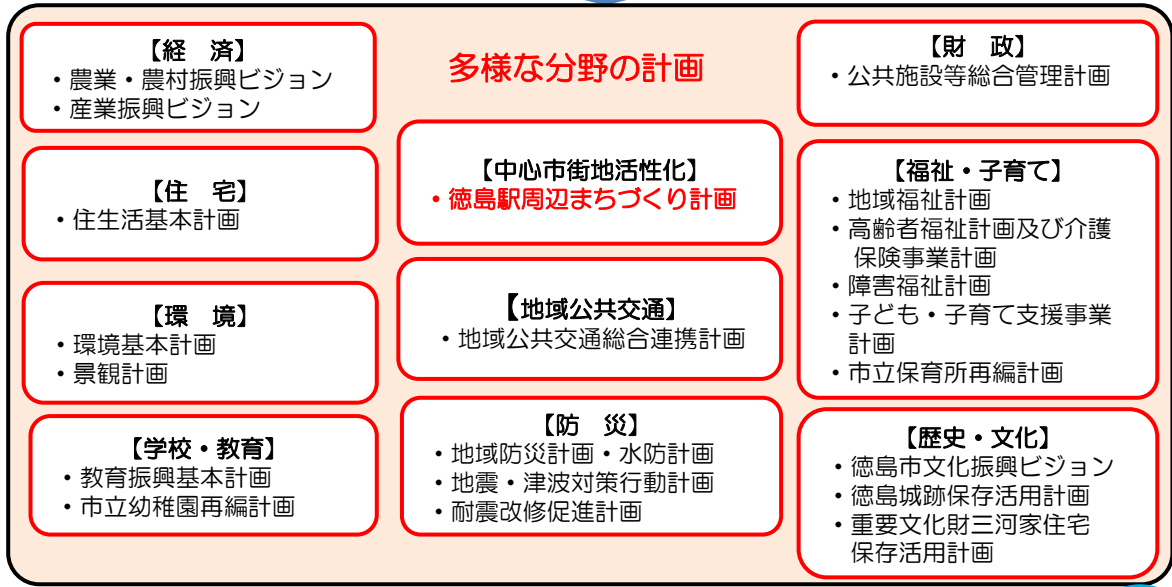
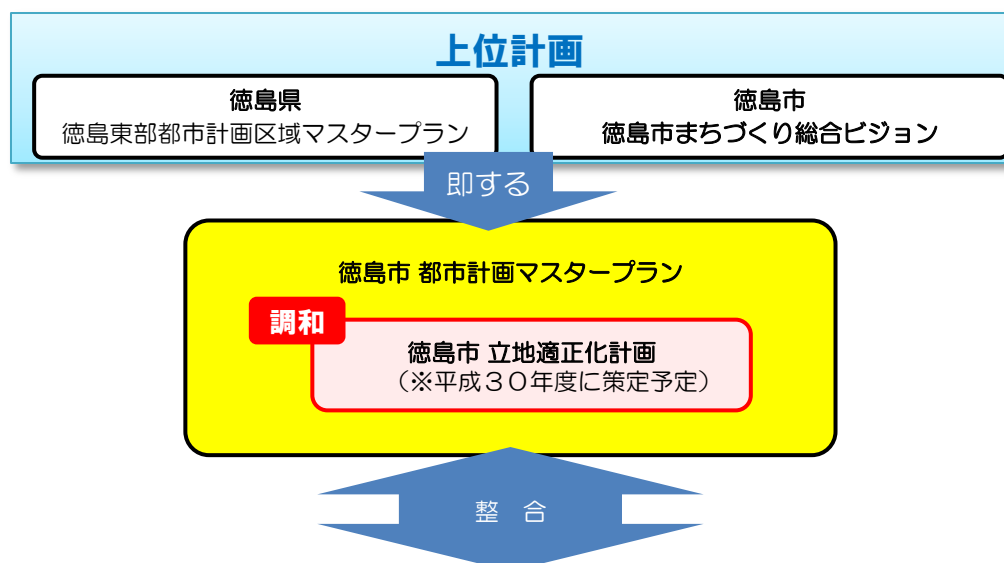
- ⇒ ○まちづくり総合ビジョン
- 都市計画マスタープラン
- 策定予定の立地適性化計画

- ⇒ 中心市街地のまちづくりや活性化等の具体的な構想、また、計画については、現在、策定されていない



○新たな徳島駅周辺まちづくり計画は、まちづくり総合ビジョンや都市計画マスタープラン、作成予定の立地適性化計画、これらとの整合性を図り、個別に策定を進める

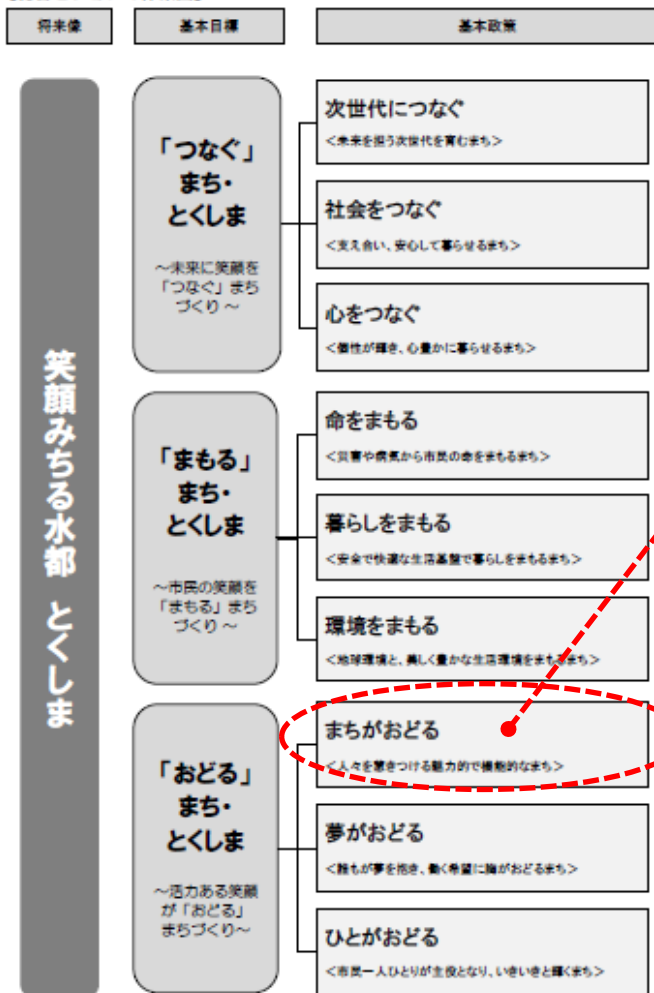
徳島駅周辺まちづくり計画の位置付け



4 上位計画(まちづくり総合ビジョン・都市計画マスタープラン等)におけるまちづくりの方向性や考え方

(1) まちづくり総合ビジョンにおける方向性等

【総合ビジョンの体系図】



施策

- 1 都市ブランドの創出
- 2 計画的な都市づくりの推進
重点事業の一つとして、
「鉄道高架事業関連まちづくり計画の策定」
- 3 観光・交流の促進
- 4 文化財の保存と活用
- 5 やさしい都市空間の推進

～人々を惹きつける魅力的で機能的なまち～

少子高齢化・人口減少の進行に対して、**コンパクトで利便性の高い集約型の都市構造を形成**することが求められており、その核となる**都心部においては、地域固有の資源を生かして、魅力的な都心を形成**する必要がある。

【目指すまちの姿】

中心市街地では、集約された都市機能と、眉山や河川網による自然環境が調和し、**にぎわいにあふれた「歩いて暮らせる、歩いて楽しめる」都市空間**がつくられ、**交流人口と定住人口が共に増加**し、人々の活気であふれている。

4 上位計画(まちづくり総合ビジョン・都市計画マスタープラン等)におけるまちづくりの方向性や考え方

(2) 都市計画マスタープラン(H24年3月策定)における方向性等

○将来都市構造

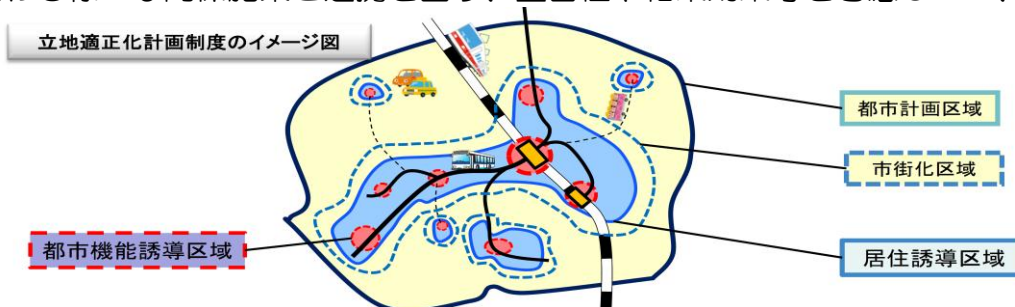
- ・市街地の無秩序な拡大を防ぐ
- ・吉野川、新町川をはじめとする河川網と眉山や城山の山地・丘陵地、また海岸線の豊かな自然との調和を図る
- ・中心市街地の高次の機能や都市的魅力的強化
- ・JR駅をはじめとする公共交通や既存の公共施設等の集積を活かした都市機能の集約
- ・四国縦貫自動車道の整備を踏まえたインターチェンジ周辺等での産業機能の維持、強化を図る
- ・自然環境と調和した低炭素型の都市構造の形成を目指す

○徳島駅周辺地域(都心)

- ・文化施設などの高次の都市機能の充実を図る
- ・既存の都市機能の集積を活用し、まちなか観光やまちなか居住を促進するなど、活力ある都市圏の形成をけん引する。
- ・空き店舗対策等による商業機能の充実や商店街の再生、用途の変更(機能・空間の再構築)
- ・高齢者向け住宅の供給や医療・介護サービス等と連携した高齢者の生活支援
- ・徳島駅周辺のユニバーサルデザイン化や公共交通の充実等による移動環境の向上

(3) 立地適性化計画(H30年度策定予定)における方向性等

都市計画法を中心とした従来の土地利用規制に加え、居住機能や都市機能の誘導により「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の形成に向けた取組を推進するもので、都市全体の観点から、居住機能や都市機能の立地、公共交通の充実等に関し、公共施設の再編、医療・福祉、中心市街地活性化、空き家対策の推進等のまちづくりに関わる様々な関係施策と連携を図り、整合性や相乗効果等を考慮しつつ、総合的に検討する。



5 本市中心部の現状

○中心市街地の来街者が大きく減少

- 背景
- ・ 中心市街地は、昭和30～40年代にかけて、新町地区を中心に商業施設の集積が進み、県下から多くの買い物客が集まりにぎわいを見せていた
 - ・ モータリゼーションの普及に伴い、商業機能が駐車場を備えた郊外型店舗に分散
 - ・ 高速交通網の発達に伴う消費行動の広域化
 - ・ ネット通販の普及等による消費行動の変化、娯楽の多様化

○内町・新町地区の人口

内町：H16年・5,790人 → H29年・5,724人 新町：H16年・2,483人 → H29年・2,182人

○内町・新町地区の高齢化率の上昇

内町：H16年・26% → H29年・33% 新町：H16年・30% → H29年・38%

○内町・新町地区の卸売・小売業事業所数の減少

内町：H19年・461店 → H26年・265店 新町：H19年・279店 → H26年・146店

○徳島駅前を中心とした内町地区への歩行者流入量の減少

休日：H24年・4,518人 → H28年・3,871人

○内町地区の卸売・小売業年間商品販売額、売場面積の減少

販売額：H19年・784億円 → H26年・509億円 売場面積：H19年・5万5千㎡ → H26年・4万1千㎡

○内町地区の事業所・従業員の減少

事業所数：H21年・1,793 → H26年・1,644 従業員：H21年・21,821人 → H26年・19,641人

○内町地区の地価の下落

相続税路線価：H22年・165,000円 → H28年・120,000円（寺島本町西1丁目）

○延べ宿泊者数（内、外国人宿泊者）

徳島市 H27・634,468人 → H28・765,843人 徳島県：H24・1,820,010人 → H28・2,256,370人
(18,808人) (28,450人) (45,090人) (68,390人)

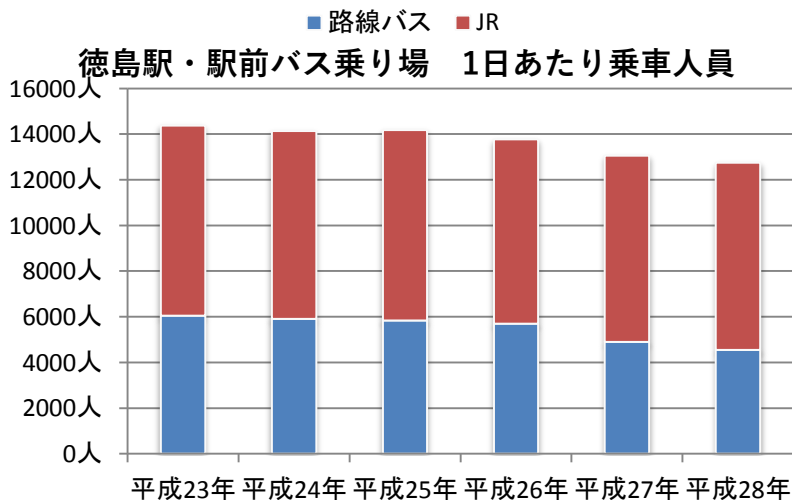
※参考：H27・観光レジャー目的 県内・国籍別訪問者（上位） 香港：41% 台湾：34% タイ：7%

6 徳島駅周辺における固有の課題

(1) 公共交通

○徳島駅や徳島駅前路線バス(市交通局、市委託路線、徳バス)の乗車人員の減少

徳島駅の1日平均乗車人員 H17年・8,535人 → H28年・8,187人
徳島駅前バス乗り場1日平均乗車人員 H23年・6,044人 → H28年・4,550人



○徳島駅を発着するJR路線の利用者減少見込み(四国運輸局推計)

	2015年度		2040年度	
高德線	700万人	→	563万人	(19.6%減)
徳島線	412万人	→	349万人	(15.3%減)
牟岐線	367万人	→	286万人	(22.1%減)

6 徳島駅周辺における固有の課題

(2) 都市基盤

○交通渋滞の発生

- ⇒ 中心部では、県道以上の幹線道路のほとんどが、混雑度（混雑を表す指標で1.0以上は、その道路の交通容量を超えて混雑がある状態）1.0以上となっている
交通量が多い国道11号、国道192号では、それぞれ混雑度1.46や2.60の区間がある
（平成27年度全国道路・街路交通情勢調査）

○避難路・救援路の整備の遅れ

- ⇒ 救急車や消防車が通行できない立体交差（中州陸橋等）がある

○ボトルネック踏切

- ⇒ 花畑踏切（踏切交通遮断量：99,725台・時 踏切安全通行カルテ）
による周辺幹線道路の交通渋滞が発生
（歩行者等交通遮断量 38,619人・時 踏切安全通行カルテ）

○鉄道横断動線の不足

- ⇒ 鉄道を横断する動線が脆弱で、鉄道を挟んだ南北の相互利用が
しにくい

○徳島駅前周辺の機能の問題

- ⇒ 徳島駅前におけるシンボリック景観が不足
- ⇒ 徳島駅前バス乗り場や駅周辺の施設への移動などでは、駅前広場における車道横断が頻繁に
必要となる
- ⇒ 徳島駅ビル出口周辺の歩行者の溜まり空間が狭い
- ⇒ 徳島駅ビルを出るとすぐに車道と交錯し、駅周辺の施設へのつながりが分かりづらい



6 徳島駅周辺における固有の課題

(3) 都市の魅力

○まちの魅力を活かしきれていない

- ⇒ まちの中心部には、魅力的な空間が多く存在するにもかかわらず、鉄道による市街地の分断やその影響（渋滞、段差）によって、円滑な移動ができず、まちの魅力を活かしきれていない
- ⇒ 徳島駅前から地域資源（徳島中央公園や徳島城跡）へのアクセスが悪く、身近に感じることができない

徳島駅北側：魅力的な河川・親水空間（助任川）や歴史・文化施設（徳島中央公園、徳島城跡、徳島城博物館）、市立体育館

徳島駅南側：商業・業務施設（そごう徳島、徳島駅クレメントプラザ、シビックセンター等）や公共施設（徳島市役所、市立図書館等）の集積地



6 徳島駅周辺における固有の課題

(4) にぎわい

○中心市街地の活力の低下

- ⇒ 中心市街地（内町・新町地区商店街付近）での歩行者数の推移は、平成19年度からの9年間で、平日観測は約35%減、休日観測は約20%減の歩行者数となっており、中心市街地の活力の低下が伺える
- ⇒ 内町・新町地区の小売業の事業所数や売場面積、年間商品販売額の減少傾向にあり、徳島駅周辺における商業機能が近年は低下している
- ⇒ 徳島駅周辺の商店街においては、空き店舗が目立つ
- ⇒ 徳島駅周辺における虫食いの平面駐車場の立地（元町1丁目の低利用地）

○鉄道によるまちの分断

- ⇒ 本市の中心部は鉄道により分断されており、現在、多くの踏切や立体交差施設を利用した移動が強いられ、様々な都市活動の支障となっている

(5) 社会的ニーズ

○ユニバーサル化への対応の遅れ

- ⇒ 高齢化が進行しており、高齢者が元気に暮らして活動できる、また、人口減少が進むなか、子育て世代や障害者等についても、安全・自由に活動できるための都市基盤の整備が必要だが、本市中心部では、鉄道交差部や駅とその周辺等で、陸橋（剣先跨線橋等）などの不便な立体交差が多くあり、円滑な移動ができない状況が生じている
- ⇒ 徳島駅から新町川手前までの区間において、歩行者、自転車、車いすの方の通行が、非常に不便（この区間で歩行者や自転車が鉄道を横断できる箇所は6か所あるが、どの箇所も階段や坂道であったり、また平面であっても歩道が狭い）



7 現行の「徳島駅周辺のまちづくり計画」(H22年度策定)

(1) 「徳島駅周辺まちづくり計画」の概要

○車両基地の跡地での北口駅前広場の新たな整備

(高速バス乗降場・待機場、タクシー乗降場、一般車乗降場、オープンスペース等)

○現在の南口駅前広場の再整備

(路線バス乗降場、タクシー乗降場・タクシープール、一般車乗降場、多目的広場等)

効果 ⇒ 地域交通・広域交通の要となる交通結節点の機能強化

○歩行者・自転車回廊の整備

効果 ⇒ 魅力的な歩行者・自転車ネットワークの形成

○車両基地の跡地を利用した多目的広場の整備や、寺島川の一部復元

効果 ⇒ 隣接する徳島中央公園と併せて、「水と緑と歴史」をテーマとした魅力的な景観の創出

○(仮称)東西道路の新設

効果 ⇒ 徳島駅の交通結節機能の強化、南北市街地の分断の解消、徳島駅周辺の円滑な交通処理

○徳島駅周辺高架下用地の利用

効果 ⇒ 自由通路による南北市街地の分断の解消や、情報提供・交流施設、店舗、駐輪場、歩行者回廊等の導入

○モール化(歩行者・車共存道路)

効果 ⇒ 歩道拡張やデザイン舗装、街路灯などの照明設備設置、自動車の通行制限、商店街との連携による個性ある雰囲気づくりや憩いの場づくり、人のにぎわい創出や交流の促進

○(仮称)市役所前道路の新設

効果 ⇒ 消防車等の緊急車両の通行短縮(東防署から幸町方面への直接通行可能による防災機能の強化)

○市役所前から中州市場また新町川北岸沿いの道路の対面通行化

効果 ⇒ 幸町周辺の円滑な交通処理や快適な都市環境の創出

○新町川沿いの河岸公園の整備

効果 ⇒ 魅力的な河川空間の創出

[徳島駅周辺まちづくり] 全体イメージ図

S=1:3000



7 現行の「徳島駅周辺まちづくり計画」(H22年度策定)

(2) 「徳島駅周辺まちづくり計画」の課題

○平成26年2月の徳島市内鉄道高架・沿線整備促進協議会総会において、県からは、分割都決案が正式に提案

【分割都決案】・・・新町川付近から冷田川付近までの約2.9km区間を先行しながら、時間を要する徳島駅周辺についての課題解決を図り、先行区間の完成が見通せる時期に、車両基地の移転を含む徳島駅部の都決に向けた調査等に着手し、全体区間を完成させる進め方

※徳島市としては、徳島駅周辺の高架化が重要と考えることから、現在まで県が提案する分割都決案には同意していない。



7 現行の「徳島駅周辺まちづくり計画」(H22年度策定)


○県の分割都決案に対する本市の考え

- 本市としては徳島駅周辺が重要との考え方
⇒ 鉄道高架事業の進捗を図るために、平成26年度以降、徳島県及びJR四国との協議を継続
- 3者での協議においては、徳島駅部の課題の一つに、鉄道高架に併せた徳島駅周辺のまちづくりがあげられている
- 鉄道高架と一体化した徳島駅周辺の整備により、中心市街地のにぎわいを創出することなどが必要となる

○現行の徳島駅周辺のまちづくり計画の整備内容・・・駅前北口広場や高速バスやタクシーの乗降場、多目的広場の整備等



にぎわいの創出という面での弱さ



より一層のにぎわいの創出や都市の魅力づくり、公共交通機関の利用促進等を可能とするまちづくり計画の策定が急務

8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」

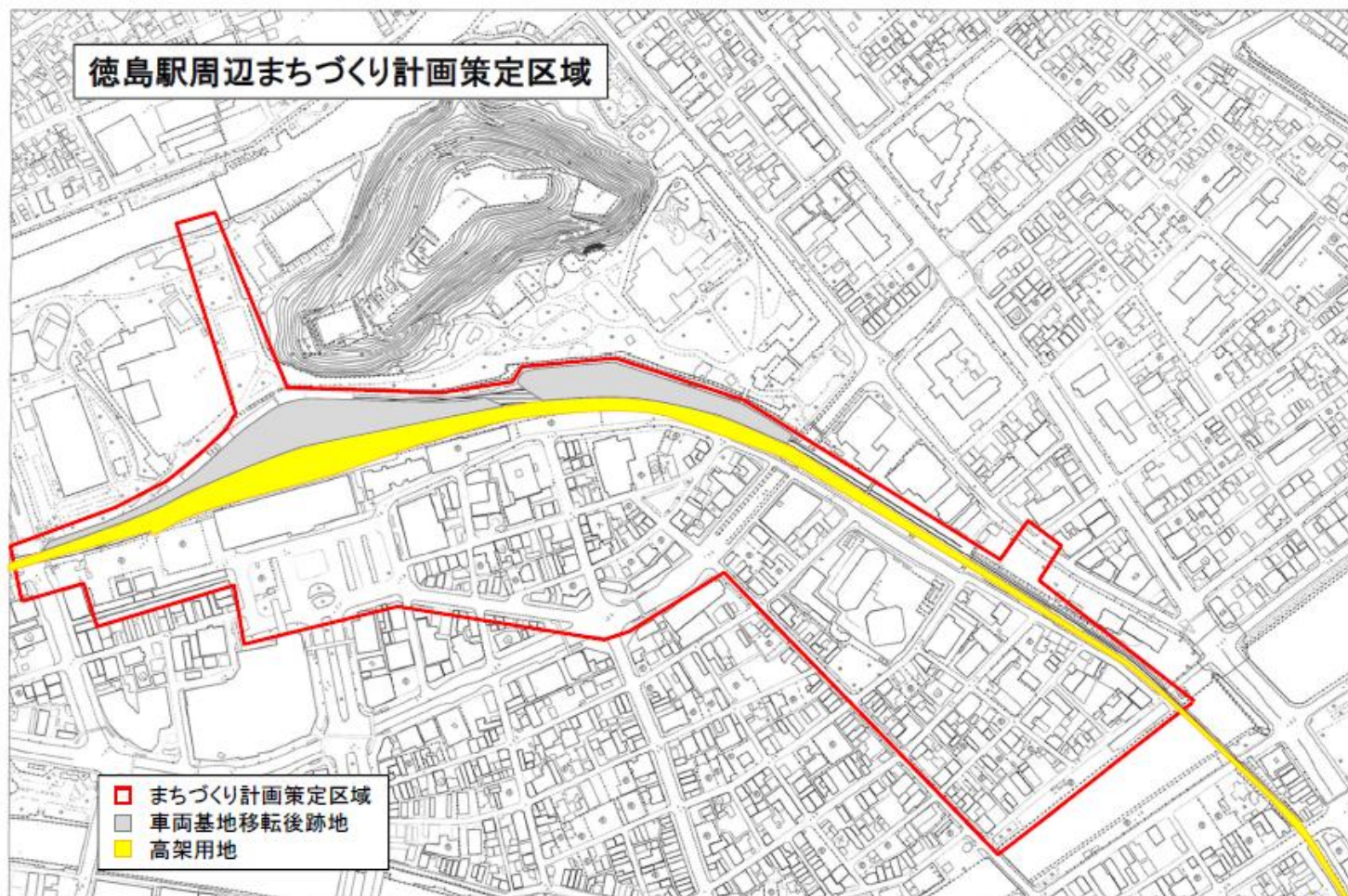
(1) 計画策定までのスケジュール

平成 29 年度	平成29年4月	<ul style="list-style-type: none"> プロポーザル実施の公告・実施要領等資料の提供 (本市HPに掲載) (28日)
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回策定会議及び幹事会(庁内組織)の開催(18日) (※以降、適宜開催する。) プロポーザル参加資格審査(22日)
	6月	<ul style="list-style-type: none"> プロポーザル企画提案書等審査(29日)
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の開催 委託業者と契約締結 委託業務の開始(徳島駅周辺の基礎調査、課題の抽出、整理、分析等)
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 9月～12月にかけて、第2回～4回徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の開催
	平成30年1月	<ul style="list-style-type: none"> 第5回(最終)徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会の開催
	2月	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり計画(素案)の作成、概算事業費の算定議会報告
	3月	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり計画(素案)の公表(※3月市議会の終了後を予定) パブリックコメント手続きの実施
平成 30 年度	平成30年 5月～6月	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント手続きの結果 徳島駅周辺まちづくり計画(最終案)の議会報告 徳島駅周辺まちづくり計画の策定・公表

8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」

(2) 計画策定区域

- 現行の「徳島駅周辺まちづくり計画」の範囲を基本とするが、今後、検討を進めていく中で、前述のまちづくりを検討する観点から、必要があれば区域を拡大することも考える



この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 平29徳島市指令都政第644号)

8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」

(3) 計画策定の考え方

○現行の「徳島駅周辺まちづくり計画」における基本的な整備方針

◆都市交通の改善 ◆防災機能の強化 ◆交流の促進・にぎわいの創出 ◆ユニバーサル機能の強化

これら4つの整備方針に加えて・・・

○新たなまちづくり計画における基本的な整備方針

人口や公共交通機関の利用者、小売業事業所などが減少しているなか、外国人宿泊者数は増加している現状など、徳島駅周辺を取り巻く現状・課題をできる限り正確に把握し、

① より一層のにぎわいの創出 ② 都市の魅力づくり ③ 公共交通機関の利用促進 の観点から、

さらなる検討を行い、20・30年後も持続できる徳島駅周辺まちづくり計画を策定することが急務である。

(4) 整備方針に基づく検討事項(案)

○徳島駅周辺の現状把握やさらなる課題の抽出、データに基づいた分析結果を踏まえ、メインターゲットを絞り、まちづくりのコンセプトやまちの将来像を検討するとともに、必要となる都市機能やソフト面の取り組みなどについて、ご意見やご提案をいただく。

① より一層のにぎわいの創出

- ◆ 鉄道高架に伴う車両基地の移転跡地や高架用地等を活用し、どのような施設等を整備又は誘導すべきか
 - ・ 文化交流施設（新ホール、民間のカルチャーセンターや生涯学習施設）
 - ・ インバウンド等来街者への対応（観光案内所、DMO、情報発信施設、伝統工芸等体験施設、宿泊施設、レンタサイクル、多言語表示板など）
 - ・ 交流空間（屋根付きイベント用多目的空間、広場・休憩等のオープンスペースなど）

8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」

- ・ 高架下を活用したスポーツ施設（バスケットボール、フットサル、BMXなど）
- ・ 保健福祉施設（民間子育て支援施設、赤ちゃんの駅など）
- ・ 商業施設等（商店街の再生、マルシェ、スポーツ・アミューズメント施設、高架下飲食店(バル)など）
- ・ 居住施設（分譲マンション）
- ◆ 鉄道高架後の徳島駅をはさんだ南北地域の市街地の連携をどうするか
 - ・ 南北道路の整備
 - ・ 道路や歩道(歩行空間)の整備
- ◆ にぎわい創出につながるソフト的な事業としては何が考えられるか
 - ・ 定期的な集客イベントの開催
 - ・ まちなか観光の充実
- ◆ 民間活力の誘導や民間の投資を呼び込むための方策には、どのようなものが考えられるか
 - ・ エリアマネジメントの導入

② 都市の魅力づくり

- ◆ 玄関口としてふさわしい景観はどういったものか
 - ・ 駅から眉山、駅から中央公園・助任川にいたる統一感を持った景観整備
- ◆ 徳島駅周辺の地域資源（徳島中央公園や徳島城跡、ひょうたん島など）が、より一層身近に感じられる方策としては何が考えられるか
 - ・ 南北連絡道の整備(眉山から中央公園までの一体感の演出)、中央公園との連携・活用
 - ・ 川(水)や水都とくしまが感じられる親水空間の整備や川の駅との連携
 - ・ 駅前シンボルやまち中アートの整備
 - ・ 建物緑化（屋上や壁面緑化など）
 - ・ LEDによる夜間の景観整備
- ◆ 新設道路の既存道路への接続方法、駅周辺の歩行者の通行利便性の向上をどのように図るか
 - ・ 公共交通機関(高速バス、路線バス、タクシー)、自家用車等の動線の見直し
 - ・ 歩行者動線の見直し、歩道の整備や拡張、ペDESTリアンデッキ
 - ・ 自転車駐輪場の整備、コミュニティサイクルの導入
 - ・ 自動車の進入抑制

8 新たに策定する「徳島駅周辺まちづくり計画(案)」

③ 公共交通機関の利用促進

- ◆ インバウンドへの対応だけでなく、乗客数の減への対応、交通結節点としての機能強化につながる取組として何が考えられるのか
 - ・ 南北連絡道や東西道路の整備
 - ・ 駅前広場や歩行者デッキの整備
 - ・ 自転車駐輪場の整備
 - ・ 路線バス、高速バス、タクシー乗降場の駅南北への再配置、わかりやすい表示や案内
 - ・ 公共交通相互の乗換えの利便性向上（風雨に当たることのない乗り継ぎ）
 - ・ 乗客の利便性向上（乗車カードや電子マネーの導入）や乗客に対するサービス向上やインセンティブの導入
 - ・ 情報化やITの活用（現在位置の表示や接続時刻の案内など）